

IHSS

Kinki Univ.

近畿大学 健康スポーツ教育センター研究紀要

第8巻 第1号

2009

〈特集 2008 北京オリンピック・パラリンピックを振り返って〉

特集に寄せて……………熊本 和正……………	3
今更ながらのスポーツ再考……………松浪登久馬……………	7
オリンピックメダリストの育成 平井伯昌のコーチング……………直井 愛里……………	9
男女マラソンで起きたそれぞれのサプライズ……………佐川 和則……………	11
今想うこと……………大川 松博……………	13
NHK 番組「アインシュタインの眼 北京オリンピック陸上 100 m 徹底解剖」を視聴して……………禿 正信……………	15
北京オリンピックにおける日本柔道……………岡田 龍司……………	19
北京オリンピックを振り返って……………高島 親郎……………	21
北京オリンピックボクシング種目 日本の低迷と中国の大躍進……………浜田吉治郎……………	23
北京オリンピック競技から「先手」と「先」を考える……………田中ひかる……………	25
「演じる」という過剰性 —スポーツ心理学における劇的観点—……………津田 忠雄……………	27
2008 北京パラリンピック観戦……………難波 真理……………	33
北京オリンピック雑感 —オリンピック種目の変遷と東京オリンピック招致について—……………大島 寛……………	37

〈実践報告〉

大学体育におけるフットサルの指導に関する一考察 —男女共習型授業の実践を通して—……………大島 寛……………	41
---	----

〈研究資料(報告)〉

成人男女を対象とした脂肪酸化率が最大になる歩行速度の決定……………佐川 和則、田中ひかる、熊本 和正……………	47
高齢者の転倒予防に関する基礎的研究 —女性の自然歩行における爪先高に着目して—……………田中ひかる、佐川 和則、淵本 隆文……………	55
「北米先住民族」に関する文献目録(抄) <和書編> —球戯研究を前提に—……………松浪登久馬……………	63

〈実践報告〉

大学体育におけるバスケットボールの指導に関する一考察……………禿 正信……………	79
--	----

〈集録〉

平成 20 年度第 1 回公開講座「健康スポーツ教室」報告……………禿 正信……………	95
FD 活動報告……………佐川 和則……………	96
アンチエイジングセンター第 2 回市民公開講座報告……………熊本 和正……………	100
健康スポーツ教育センター活動報告(2008 年 1 月~12 月)……………	102

〈その他〉

近畿大学健康スポーツ教育センター研究紀要寄稿規程……………	104
近畿大学健康スポーツ教育センター研究紀要編集委員会内規……………	105
近畿大学健康スポーツ教育センター研究紀要編集内規……………	105
近畿大学健康スポーツ教育センター研究紀要論文審査内規……………	106

近畿大学健康スポーツ教育センター

The Research Bulletin of Health and Sports Sciences

Vol.8 No.1 2009

CONTENTS

Special Reports: Looking Back on the Beijing 2008 Olympic and Paralympic Games

Preface for Special Reports	Kazumasa Kumamoto	3
Sports Reconsideration Afresh	Tokuma Matsunami	7
Coaching Olympic Medalists -Norimasa Hirai-	Airi Naoi	9
The Surprises at the Men's and Women's Olympic Marathon Trials	Kazunori Sagawa	11
Present Thoughts	Matsuhiro Irikawa	13
Reviewing the 2008 Summer Olympic Games in Beijing from TV Broadcasting Program Seen from "Einstein's Eye" — Analysis of 100 meters Races in the 2008 Olympics" Produced by NHK	Shoshin Kamuro	15
The Japanese Judo Team at the Beijing 2008 Olympic Games	Ryuji Okada	19
Looking Back on the Beijing 2008 Olympic Games	Norio Takashima	21
Beijing Olympics : Boxing Japan's Slump and China's Progress	Yoshijiro Hamada	23
One Consideration of "SENTE" and "SEN" in the Badminton Competition (SENTE; anticipate, SEN; initiative)	Hikaru Tanaka	25
"Perform" of Excess — Dramatically in terms of Sports Psychology —	Tadao Tsuda	27
2008 Beijing Paralympic Games Watching Account	Mari Nanba	33
The Beijing Olympics Impressions — The Transition of the Olympics Events and the Tokyo Olympic Bid —	Hiroshi Oshima	37
Practice Report A Study on the Futsal Classes in University Physical Education Activities — Based on Teaching Experiences of Co-Educational Classes	Hiroshi Oshima	41
Research Materials Determination of Maximum Fat Oxidation Rate During Walking in Middle Aged Healthy Men and Women Kazunori Sagawa, Hikaru Tanaka and Kazumasa Kumamoto		47
Research Materials Basic Research Regarding Fall Prevention in the Elderly — Research Focusing on the Toe-Height in the Natural Walking of Women — Hikaru Tanaka, Kazunori Sagawa and Takafumi Fuchimoto		55
Research Materials Native Americans Index of Literature (Japanese Books) — Study of Ballgame Presuppose —	Tokuma Matsunami	63
Practice Report A Study on the Basketball Classes in University Physical Education Activities	Shoshin Kamuro	79
Materials Report of the Public Lecture "Health and Sports Class 2008"	Shoshin Kamuro	95
Activity Report of Faculty Development	Kazunori Sagawa	96
Report of the 2008 Kinki University Public Lecture	Kazumasa Kumamoto	100
Annual Reports of the Institute of Health and Sports Science (Jan-Dec/2008)		102

Institute of Health and Sports Science

Kinki University

Osaka, Japan

近畿大学
健康スポーツ教育センター研究紀要

第8巻 第1号

2009

近畿大学健康スポーツ教育センター

特 集

2008 北京オリンピック・
パラリンピックを振り返って

論 文

集 録

目 次

近畿大学健康スポーツ教育センター研究紀要 第8巻 第1号 2009

〈特集 2008 北京オリンピック・パラリンピックを振り返って〉

特集に寄せて	熊本 和正	3
今更ながらのスポーツ再考	松浪登久馬	7
オリンピックメダリストの育成 平井伯昌のコーチング	直井 愛里	9
男女マラソンで起きたそれぞれのサプライズ	佐川 和則	11
今想うこと	入川 松博	13
NHK 番組「アインシュタインの眼 北京オリンピック陸上 100m 徹底解剖」を視聴して	禿 正信	15
北京オリンピックにおける日本柔道	岡田 龍司	19
北京オリンピックを振り返って	高島 規郎	21
北京オリンピックボクシング種目 日本の低迷と中国の大躍進	浜田吉治郎	23
バドミントン競技から「先手」と「先」を考える	田中ひかる	25
「演じる」という過剰性 - スポーツ心理学における劇的観点 -	津田 忠雄	27
2008 北京パラリンピック観戦	難波 真理	33
北京オリンピック雑感 - オリンピック種目の変遷と東京オリンピック招致について -	大島 寛	37

〈実践報告〉

大学体育におけるフットサルの指導に関する一考察 - 男女共習型授業の実践を通して -	大島 寛	41
---	------	----

〈研究資料 (報告)〉

成人男女を対象とした脂肪酸化率が最大になる歩行速度の決定	佐川 和則・田中ひかる・熊本 和正	47
高齢者の転倒予防に関する基礎的研究 - 女性の自然歩行における爪先高に着目して -	田中ひかる・佐川 和則・淵本 隆文	55
「北米先住民族」に関する文献目録 (抄) <和書編> - 球戯研究を前提に -	松浪登久馬	63

〈実践報告〉

大学体育におけるバスケットボールの指導に関する一考察・・・・・・ 禿 正信・・・・・・ 79

〈集録〉

平成 20 年度第 1 回公開講座「健康スポーツ教室」報告・・・・・・ 禿 正信・・・・・・ 95
FD 活動報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 佐川 和則・・・・・・ 96
アンチエイジングセンター第 2 回市民公開講座報告・・・・・・ 熊本 和正・・・・・・ 100
健康スポーツ教育センター活動報告（2008 年 1 月～ 12 月）・・・・・・ 102

〈その他〉

近畿大学健康スポーツ教育センター研究紀要寄稿規程・・・・・・ 104
近畿大学健康スポーツ教育センター研究紀要編集委員会内規・・・・・・ 105
近畿大学健康スポーツ教育センター研究紀要編集内規・・・・・・ 105
近畿大学健康スポーツ教育センター研究紀要論文審査内規・・・・・・ 106

健康スポーツ教育センター 活動報告 (2008年1月～12月)

研究活動

著書

- 1) 直井愛里: 肥満症. 日本スポーツ心理学会編, スポーツ心理学事典. 大修館書店: 東京, pp.510-511, 2008.
- 2) 直井愛里: 認知行動療法. 日本スポーツ心理学会編, スポーツ心理学事典. 大修館書店: 東京, pp.593-594, 2008.
- 3) 津田忠雄: 運動依存. 日本スポーツ心理学会編, スポーツ心理学事典. 大修館書店: 東京, pp.63 - 64, 2008.

論文

- 1) Naoi, A. & Ostrow, A.: The Effects of Cognitive and Relaxation Interventions on Injured Athletes' Mood and Pain during Rehabilitation. *Athletic Insight: The Online Journal of Sport Psychology*, 10(1): <http://www.athleticinsight.com/Vol10Iss1/InterventionsInjury.htm>, 2008.
- 2) Naoi, A., Grindley, E., and Nasypany, A.: Psychological Factors Related to the Assessment and Treatment of Chronic Lower Back Pain Patients: Review and Recommendations. *The Research Bulletin of Health and Sports Sciences*. 7 (1) : 25-36, 2008.
- 3) 直井愛里: スポーツカウンセリング-スポーツ選手へのメンタルサポート-. 近畿大学臨床心理センター紀要 1: 57-64, 2008.
- 4) 松浪登久馬: 日本における体育の変遷とコミュニケーション. 近畿大学健康スポーツ教育センター研究紀要 7(1): 3-7, 2008.
- 5) 禿 正信: 運動・スポーツ指導とコミュニケーション-課外スポーツ指導の場合-. 近畿大学健康スポーツ教育センター研究紀要 7(1): 9-13, 2008.
- 6) 津田忠雄: 体育・スポーツの指導における非言語的コミュニケーション-共振する身体-. 近畿大学健康スポーツ教育センター研究紀要 7(1): 15-24, 2008.

学会発表

- 1) Naoi, A., Sato, N., Sagawa, K. & Kumamoto, K.: The Relationship between College Physical Education and Physical Activity -Analysis of the Stage of Change and Barriers to Physical Activity-. 23rd Annual Association for Applied Sport Psychology Conference. St. Louis, Missouri USA, September 24-27, 2008.
- 2) 津田忠雄: コミュニケーションとしての<からだ>-身心の揺れと共振について-, 日本体育学会第59回大会, 2008年9月.
- 3) 津田忠雄, 東山明子: 大学生アスリートの喫煙・禁煙に関する実態調査, 日本禁煙科学学会, 2008.11月.
- 4) Oshima, H : A Note on the Format of Two-Person Discathon Marathon (42.195 km). World Flying Disc Federation's Congress of Field Events. August 2008 (Vancouver, Canada).
- 5) Matsunami, T. : A Factor and the Problem of Physical Strength / the Athletic Capability Fall

健康スポーツ教育センター 活動報告

of the Child. The American Association for the Advancement of Science. 2008 Annual Meeting. Boston, Massachusetts, USA, 14-18 February, 2008.

- 6) 禿 隆一、禿 正信、高本恵美：バスケットボールにおけるスクリーンプレイの勝敗に対する影響について、日本体育学会第59回大会、2008年9月。

講演・シンポジウム・研修会など

- 1) 直井愛里：スポーツ・運動障害における心理的サポート。平成20年度スポーツ指導者講習会(NPO法人 日本医師スポーツ協会主催) 2008年8月(大阪)。
- 2) 熊本和正：一に運動、二に食事、しっかり禁煙、最後に薬。近畿大学公開講座2008 アンチエイジングセンター第2回市民公開講座～メタボに負けない体づくり～。平成20年10月4日(土)(東大阪キャンパスにて)。
- 3) 大島 寛：ソフトディスクを使ったフライングディスク競技の指導。釧路管内体育指導員協議会主催。体育指導員研修会、2008年8月(北海道)。
- 4) 大島 寛：ドッチビーであそんじゃおう。貝塚市青少年人権教育交流館主催。ソフトディスクを使ったフライングディスク競技講習会。2008年11月(大阪)。

社会的活動

- 1) 平成20年度第1回近畿大学公開講座「健康スポーツ教室」：平成20年7月25日(日)午後1時30分より午後4時まで記念会館にて(卓球教室、バランスボール体操、フィットネスチェック、キッズコーナーなど)。

外部資金獲得

- 1) 平成20年度科学研究費補助金・若手研究(B)(課題番号:20700511)：受傷選手の楽観性が影響を及ぼすコーピングスキルと心理スキルトレーニング(研究代表者 直井愛里)
- 2) 平成20年度科学研究費補助金・基盤研究(C)(課題番号:18500519)：過剰運動時に漏出するミオグロビンにより生成する脂質由来ラジカルの検出とその同定(研究代表者 熊本和正)

近畿大学健康スポーツ教育センター研究紀要寄稿規程

1. 本誌に寄稿できるのは近畿大学健康スポーツ教育センター専任教員に限る。但し、編集委員会が必要と認めた場合は専任教員以外にも寄稿を依頼することができる。
2. 寄稿内容は、体育学研究領域における総説、原著論文、研究資料（報告）、実践報告、研究・教育上の問題提起、その他とし、完結した未発表のものに限る。
3. 原稿掲載の時期は、編集委員会において決定する。
4. 本誌に掲載された原稿は原則として返却しない。
5. 原稿は A4 版 400 字詰横書き原稿用紙にワープロまたはインク書きとし、本文はひらがな現代かなづかいとする。外国語をかな書きする場合はカタカナとする。
6. 原稿は原則として研究・教育上の問題提起などは図表を含めて上記原稿用紙 20 枚以内とし、総説、原著論文、研究資料（報告）、実践報告は 50 枚以内とする。
7. 図・表・原稿は必ず、A4 版以内の大きさとし、直接印刷原稿のとれるよう黒インクによりトレースするか、数表文字はタイプ打ち、または活字を使用すること。写真は白黒写とし、方眼紙は薄藍色のものを使用する。
8. 図・表・写真にはそれぞれ通し番号とタイトルをつけ、1 枚毎に台紙または原稿用紙にはり、本文とは別に番号順に一括する。また、必ず本文の図・表挿入箇所を赤インクにより指示すること。
9. 引用文献は、原則として、本文の最後に著者名を ABC 順に一括し、雑誌の場合には、著者名（発行年）論文名、誌名、巻（号）：ページとし、単行本の場合は、著者名（発行年）書名（版数、ただし初版は略）、発行所：発行地、引用ページ（p. または pp.）の順に記載する。なお、引用および注記の仕方の詳細は、日本体育学会発行、体育学研究「投稿の手引き」を参照すること。
10. すべての原稿には表題、所属、氏名の欧文を必ず添付すること。但し、原著論文については 200 語以内の欧文抄録と、その和訳を添付すること。
11. 原稿はコピーを含め、合計 3 部と原稿がセーブされたフロッピーディスク 1 枚を提出すること。また、論文内容が主として関係する研究領域と論文の分類を明記すること。
12. 本文、そのほかに使用した欧文はすべてタイプ打ちか活字を使用すること。
13. 共著の場合には、著者名とその所属を明記すること。
14. 共著者として氏名を出すものは、その論文の全般にわたり責任をもって応答できる共同研究者に限る。
15. 本紀要に掲載された論文の著作権は、近畿大学健康スポーツ教育センターに譲渡したものとす。ただし、事前に申し出があれば、筆者自身が自分の論文を利用することができる。

16. 原稿は近畿大学健康スポーツ教育センター研究紀要編集委員会に提出すること。
 17. 本規程に反しているものは掲載しない。
 18. 本規程の改定には健康スポーツ教育センター会議の議決（過半数）を必要とする。
- 付則：本規程は2002年1月1日より施行する。
- 付則：本規程は2008年4月1日より施行する。

近畿大学健康スポーツ教育センター研究紀要編集委員会内規

1. 健康スポーツ教育センター規程第7条により、健康スポーツ教育センター研究紀要編集委員会（以下委員会）を置く。運営は本規程により行うものとする。
2. 委員会は近畿大学健康スポーツ教育センター研究紀要<英文名>（The Research Bulletin of Health and Sports Sciences）の編集に関して次の任務にあたる。
 - (1) 編集発刊に関する一切の業務
 - (2) 寄稿された論文の審査依頼、原稿の分類および原稿掲載可否の決定
 - (3) その他、編集に関する事項
3. 委員会は健康スポーツ教育センター会議により選出された委員若干名をもって構成する。委員の任期は2ヶ年とし、再任を妨げない。
4. 委員会に委員長をおく。委員長は委員の互選により選出する。
5. 論文審査のための論文審査委員は委員会の推薦により健康スポーツ教育センター長がこれを委嘱する。
6. 論文の審査規程および編集に関する事項は委員会において別に定める。
7. 委員会は審査担当者の評定に基づいて原稿の取捨を決定する。
8. 委員会の召集、開催については委員長が行う。
9. 本規程の改定には、健康スポーツ教育センター会議の議決（過半数）を必要とする。

付則：本規程は2002年1月1日より施行する。

付則：本規程は2008年4月1日より施行する。

近畿大学健康スポーツ教育センター研究紀要編集内規

1. 近畿大学健康スポーツ教育センター研究紀要は、年1回発行するものとしその時期は3月1日とする。
2. 本研究紀要に掲載する論文は原則として次の通りとする。
 - (1) 総説 (2) 原著論文 (3) 研究資料(報告) (4) 実践報告 (5) 研究・教育上の問題提起
 - (6) その他

3. 掲載された論文の筆頭著者には別刷り 50 部を進呈する。
4. 本規程の改定には健康スポーツ教育センター会議の議決（過半数）を必要とする。
付則：本規程は 2002 年 1 月 1 日より施行する。
付則：本規程は 2008 年 4 月 1 日より施行する。

近畿大学健康スポーツ教育センター研究紀要論文審査内規

1. 本規程は、健康スポーツ教育センター研究紀要編集委員会規程に基づくものとする。
2. 編集委員会に寄稿された原稿は、寄稿者の希望する研究領域を参考として、論文審査委員の審査を受けるものとする。
3. 寄稿者あるいは共同研究者は、その論文の審査委員になることはできない。
4. 担当論文審査委員は寄稿論文が健康スポーツ教育センター研究紀要寄稿規程に示された基準に沿っているか否かを検討し、掲載の適否を概要 3 段階によって評定し、その結果と根拠を編集委員長に報告する。
5. 論文審査の期間は原則として 3 週間以内とする。
6. 審査委員が論文審査に困難を生じた場合には審査結果の報告書に次の事項を記入し、論文受領後 1 週間以内に編集委員に送付する。
 - (1) 困難な理由
 - (2) 他に論文審査委員として適当と思われる人
 - (3) その他の意見
7. 本規程は近畿大学健康スポーツ教育センター研究紀要編集規程 2 の総説、原著論文、研究資料（報告）、実践報告、研究・教育上の問題提起、その他、の審査に適用する。
8. 本規程の改定には健康スポーツ教育センター会議の議決（過半数）を必要とする。
付則：本規程は 2002 年 1 月 1 日より施行する。
付則：本規程は 2008 年 4 月 1 日より施行する。

編集後記

研究紀要第8巻第1号が出来上がりました。今回の内容は特集、論文5編および集録です。寄稿論文の審査にあたっては、学内および学外の先生方に快くお引き受けいただき、懇切丁寧な審査をして戴きました。また、北京パラリンピックを現地で観戦された難波真理先生（天理大学）には、特集に寄稿を戴きました。厚く御礼を申し上げます。平成20年（西暦2008年）は、北京オリンピック・パラリンピックの開催された年として、長く私たちの記憶に残ることでしょう。

それにしても昨年は、国内・国外ともに不穏な出来事の多い年でした。気候の変動や地震などの天災、様々な不正と犯罪、弾圧と戦争、小麦と原油の値上がり、それに伴う物価の上昇、米国バブル経済の崩壊と金融危機、世界恐慌の始まり、企業の倒産、使い捨てにされる労働者、貧富格差の拡大、就職できない学生、薬物の乱用、自殺者の増加、無差別殺人など、とても書ききれないほどです。これらは一過性のものではなく、年があらたまった現在もさらに深刻の度合いを深めています。アメリカはバラク・オバマ氏を新しい大統領に選び、彼の強いリーダーシップによって、未曾有の困難に立ち向かおうとしているように見えます。しかし日本では、漢字も空気も読めない政治家たちが、定額給付金を受け取るとか受け取らないとか、解散するとかしないとか、無意味な騒ぎをして時間を浪費しています。小泉元首相は「笑っちゃう」そうですが、国民は呆れ果てているし、怒っています。

このような時こそ背筋を伸ばし、自分たちの職場がすべきことをしっかりとやっつけていこうと思います。

私たちが学生に配布する生涯スポーツガイドブックには、大学における健康スポーツ教育の目的として、「自己のライフステージや心身の状態に適した身体運動やスポーツを生活の中に積極的に取り入れ、人々との交流を通じて、豊かなライフスタイルを形成できる能力を身につけること」と記載されています。

本学の学生が高い志を持ち、人生を正しく生きて行くぞというやる気と体力をもって卒業していくようにと願っています。

（熊本和正）

特集記事および論文の執筆者（五十音順）

入 川 松 博 准 教 授
大 島 寛 准 教 授
岡 田 龍 司 准 教 授
禿 正 信 准 教 授
熊 本 和 正 准 教 授
佐 川 和 則 教 授
高 島 規 郎 教 授
田 中 ひかる 講 師
津 田 忠 雄 准 教 授
直 井 愛 里 准 教 授
難 波 真 理 非 常 勤 講 師
浜 田 吉 治 郎 教 授
松 浪 登 久 馬 講 師

紀要編集委員会（五十音順）

委 員 入 川 松 博
大 島 寛（副委員長）
熊 本 和 正（委員長）
佐 川 和 則
高 島 規 郎
浜 田 吉 治 郎

近畿大学健康スポーツ教育センター研究紀要 第8巻第1号 2009年
(通巻第8号)

平成21年3月1日 印刷

平成21年3月1日 発行

発行人 掛 樋 一 晃

発行所 近畿大学健康スポーツ教育センター

577-8502 大阪府東大阪市小若江3丁目4番1号

印刷所 近畿大学 管理部 用度課（出版印刷）

KINKI UNIVERSITY

3-4-1 Kowakae, Higashiosaka, Osaka 577-8502, Japan
